

---

第13報 平成23年5月20日

# 東日本大震災 災害復旧資材供給情報

財団法人 経済調査会

---

## 【型枠用合板】

輸入品の流通が増加しており、市場は落ち着きを取り戻している。なお、産地価格の上昇に伴い、市況は依然強含みの状況が続いている。

## 【仮設・土木用木材】

仮設住宅向け需要の本格化に伴い、杭丸太にやや需給ひっ迫感が見られる。

## 【問い合わせ先】

財団法人 経済調査会

土木第一部・土木第二部

TEL 03-3543-1471

月刊「積算資料」掲載品(一般資材) 東日本大震災におけるメーカー等の被害状況および  
供給体制確認結果一覧

分類①	分類②	積算資料掲載ページ	品名	メーカー及び協会	確認日	被害状況について	被災地域への供給体制	被災地域以外への供給体制	備考(価格動向・買占め状況等)
共通資材	型枠材	210 ～ 211	コンクリート 型枠用合板	販売店	5月18日	荷揚げ港、港頭倉庫に被害が出ていたが、一部を残し復旧している。	荷揚げ港は一部を残して復旧している。一般船舶の入港が可能となったことで、海路での輸送が再開し始め、供給体制は改善されつつある。	輸入品が順次入荷しており、供給不安は解消されてきている。	輸入品の流通が増加しており、市場は落ち着きを取り戻している。なお、産地価格の上昇に伴い、市況は依然、強含みの状況が続いている。
建築資材	内外装材	572	針葉樹 構造用合板	販売店	5月18日	宮古、石巻、大船渡など、製造工場が被災。現在復旧作業中だが、製造再開は未定。	供給面では、メーカー側で仮設住宅向けを最優先としている。一般ルートでの供給も回復しつつあるが、損壊住宅の修繕等で調達困難な場面も未だ多い。	供給面で品薄感が薄らぎつつあり、大手ハウスメーカー・ビルダー・プレカットメーカー等の直需向けへの供給は確保出来ている。しかし、一般物件では、まとまった量の確保が難しい状況が続いている。	被災地以外の有力工場のフル稼働により、需給のタイト感はやわらぎつつあるが、依然として逼迫感が残っている。一方、受注制限は徐々に緩和されている。
共通資材	木材	226 ～ 229	仮設・ 土木用 木材	販売店	5月18日	主な産地に目立った被害は見られない。また、製材所の稼働状況は改善している。	仮設住宅向け需要の本格化に伴い、杭丸太にやや需給が逼迫する場面が見られる。	被災地向けへの優先供給が見られているが、一般的に品薄感は解消されている。	特になし。
共通資材	木材	230 ～ 237	一般 建築用 木材	販売店	5月18日		板材の一部に見られた不足感は解消され、またその他構造材等の供給についても、落ち着いている。		特になし。

月刊「積算資料」掲載品（一般資材） 東日本大震災におけるメーカー等の被害状況および 供給体制確認結果一覧

分類①	分類②	積算資料掲載ページ	品名	メーカー及び協会	確認日	被害状況について	供給体制について	備考
土木資材	軽仮設資材	254(販売) 278(リース)	仮設足場	全国仮設安全事業組合・軽仮設リース業協会	5月18日	被災地の一部事業所で材料流出や工場設備に被害があったが、復旧している	現時点では東日本大震災復興向けの引き合いは少なく、保有量に問題はない。 被災地以外の供給は平常通り。	
土木資材	軽仮設資材	262(販売) 284(リース)	仮設ハウス	プレハブ建築協会、メーカー各社	5月18日	被災地の一部工場で工場設備に被害があったが、復旧している	被災地向けは、(社)プレハブ建築協会を中心に加盟メーカーおよび協力メーカーが全国の生産ラインを使いフル生産を続けている。メーカー各社は、需給がひっ迫している合板や断熱材についても被災地向けには当面の量を確保しており、供給に問題はない。現場事務所用のリース品は被災地以外では在庫が見られるが、被災地では品薄となっている。	
土木資材	軽仮設資材	260 264	ブルーシート、土のう	メーカー、販売店各社	5月18日	なし	ブルーシートは、引き合いが多く在庫は品薄状態が続いているが、震災直後に比べると落ち着いた状況になりつつある。土のうは、引き続き被災地向けの引き合いが多く在庫は品薄状態が続いている。特にがれき類を入れる1tタイプのフレコンの不足感が強い。	